

「女性いきいき大賞」は今回で3回目になります。それぞれの地域でさまざまな活動をしておられる団体の応募がありました。今回応募された団体は29団体で、1次選考で15団体に絞り、まず各分野での優秀賞を選び、その中から最優秀賞を決定致しました。その選考基準は、「“いきいき”と活動しているか」ということと、「その活動が年々回りの人を巻き込み、広がりを見せているか」ということでした。また、今年はボランティア精神を若い人たちにも



奮^もり、ボランティア人口の裾野を広げたいという思いがあり、初めて「学生の部」を設け、長年活動を通して音楽を通して多くの方を“いきいき”とさせてきた団体を表彰しました。この受賞をきっかけに、地域の活性化のためにより“いきいき”と活動して下さい幸いです。なお、優秀賞を受賞した団体の受賞理由は以下のとおりです。

○NPO 法人 シンフォニーネット（最優秀賞・山口県知事賞）：福祉分野

「自閉症・発達障害」という言葉が社会に認知されるずっと以前から、そのようなお子さんを持った親御さんたちが集まり、10年の間勉強会や講演会を通して同じ問題をかかえる方々の掘り起こしや社会への啓発活動を行い、子どもたちには療育活動や生活・余暇支援活動、就労支援と確実に広がりを見せていることが評価されました。NPO 法人を取得したことからも、この活動を確認たるものにしたいという会員の方の意気込みが伝わってきます。また、「自閉症・発達障害と診断されても怖くないよ。素敵な社会人になれるんだよ」ということを子どもさんたちに伝えたいという思いをもって活動しておられることに感銘を深くしました。これは障害をもっておられる方だけではなく、社会から孤立していると感じているすべての人に励ましを与えるものです。選考委員全員一致で最優秀賞となりました。

○今殿いきいきサロン（優秀賞・朝日新聞社賞）：地域づくり分野

家に閉じこもりがちな高齢者が外に出かけ、地域の人たちと一緒に楽しめる場所を提供するという趣旨のもとに活動を始め、それがボランティアを「したい人」、「してほしい人」を気兼ねなくつなぐために、「ささえ愛券・ちょぼら券」を発行していることは、独創性があり、大変いいアイデアだと思います。まさに笑顔で“いきいき”と活動しておられる様子が目に浮かびます。高齢者を支えていると思っていたら、高齢者からも支えられていることが発見できる活動として評価されました。

○光人形劇協議会（優秀賞・yab 山口朝日放送賞）：子育て分野

良質の人形劇をより多くの親子に低料金で提供するという趣旨のもとに運営されていることと人形劇を通して地域の子どもたちに感動を与え、やさしさを育み、社会性を身につけさせるという目的意識がはっきりしているところがこの団体の素晴らしい点だと思います。また、この団体にいろいろな劇団が加盟し、横のつながりを持ちながら、なおかつそれぞれがそれぞれの個性を維持しつつ活動を行っていることも高く評価されました。

○リフォームボランティアどんぐりの会（優秀賞・山口新聞社賞）：くらしづくり分野

最高齢 85 歳の方を筆頭に、高齢者の方がリサイクルすることの大切さを楽しみながら伝えることによって、地域の社会福祉のために長年貢献してこられたことが評価されました。特に、自分たちの会の運営だけではなく、地域のいろいろな団体を支援してこられたことは素晴らしいことであると思います。また、長門市というボランティア団体が少ないところで活動が続けてこられたので、この地域のボランティア活動を牽引する役割も担ってほしいとの思いも込めて賞を差し上げることになりました。

最優秀賞(山口県知事賞)

NPO 法人 シンフォニーネット

代表者 岸田 あすか (下関市)

活動の動機・目的

下関市内で自閉症・発達障害児者の親の会「キラキラ☆キッズ」として発足。下関市在住の自閉症・発達障害児者とその家族、関係者及び地域社会に対して、自閉症・発達障害児者に対する適切な療育、正しい自閉症の知識の啓発、いきいきとした地域生活の場の提供に関する事業を行い、自閉症・発達障害児者のよりよい成長、幸福な人生の創造に寄与することを目的としている。

活動の内容

- ① 療育活動事業（就園前～小学校４年生）個別活動、小集団活動など遊びを通じて療育。今年度は新たに人数増により年齢別活動を開始。
- ② 生活・余暇支援事業（小学校５年生以上）街に出てのソーシャルスキルトレーニング。街に繰り出すことで地域の方々に自閉症・発達障害を理解してもらえる。今年度は保護者なしでボランティアとの一泊旅行チャレンジ組が増えた。
- ③ 相談・個別カウンセリング事業 障害名の有無に関わらず、人とのコミュニケーションが上手いかないことにより、社会生活に差しさわりのある方の相談・生活支援。市内２箇所。
- ④ 就労支援 企業への啓発活動実施。障害者就労に関する先進地区の講師を招いての啓発講演会開催。今年度は、就労支援者として必要なジョブ・コーチを山口県に増やすための循環型啓発講演会を県内６箇所で開催。下関市内で２日間のセミナーを主催（参加者２００名）。
- ⑤ 会報発行・HP運営
- ⑥ 啓発のための懇談会・講演会・シンポジウムの開催
- ⑦ サポートボランティア養成事業
今年度新たに成人の障害者のためのサポートボランティア養成事業開催（行動援護を知ろう）
- ⑧ 先生のためのスキルアップ講座
講演と事例検討を一月毎に繰り返し実施。講師は児童精神科医、小児科医、行動療法士等。
- ⑨ 新たに生活支援として毎週土曜日有機農法の畑作業に参加。 等

これからめざしたいこと

- ・ 今まで手探りで頑張ってきたが、いつも子どもたちが結果を出してくれた。今後も明るく頑張っている子どもたちを前面に出すことで、障害に対し不安を持っている人たちに向け、啓発活動をおこなって早期発見・早期改善につなげていきたい。
- ・ 当事者がいつでも気軽に集まれる居場所を地域に作っていくことが目標。平成２２年度中の開設に向け始動。
- ・ 地域での支援者が絶対数不足の為、行動援護従事者養成講座の開設と運営をめざす。



キラキラ☆キッズのサマーキャンプ



ジョブ・コーチセミナー in 山口

優秀賞(朝日新聞社賞)

今殿いきいきサロン

代表者 前上 喜代子(光市)

活動の動機、目的

光市内の自治会で発足したいいきいきサロンの中で、今殿自治会の中で独自に展開。家に閉じこもりがちな高齢者を外に出かけさせて、地域の人たちと一緒に楽しめる場所づくりを行う。

活動の内容

- ① 「いきいきちょぼらの会」を昨年立ち上げ、順調に会員数も増え、軌道に乗ってきた。
「ちょぼら」とは「ちょっとボランティア」の事。いきいきサロンに参加するお年寄りの中には、独居の人や家族に迷惑をかけまいと一人で頑張っている人が多いので、ちょっとしたことでも気兼ねなく頼めて、サポートできる仕組みができないかと考え、地域通貨を応用した。
会員はボランティアできる人と手助けしてほしい人で構成。会のコーディネーターが紹介・派遣。
内容は、病院や公民館、買い物への送迎、大きなものの運搬、服のほつれ直し、おしゃべり相手など。
- ② いきいきサロン開催。毎月1回ずつ、遊びの日・学びの日・奉仕の日を設けて活動。
- ③ 放課後子ども教室事業に参画。昨年5月から三井小学校放課後教室で、「遊び教室」「学び教室」を立ち上げた。
- ④ 老人施設などを訪問。同じ年代の人と交流することで、施設に入所、通院している人たちに元気パワーを送る。一緒に歌を歌ったり、踊ったりして楽しむ。
- ⑤ 子供会と交流。地元の蛍スポットで一緒に鑑賞する「ほたるの夕べ」開催。
- ⑥ 奉仕隊結成。元気な会員が多いため、遊ぶだけでなく、地域のために役立つ活動を実施。児童・生徒の下校時間に見守り活動を行う「三島ふれあいネットワーク」にも団体登録済み。
- ⑦ 笑顔の掲示板。自治会館の外壁に手作りの看板を取り付け、今殿で出会う人たちの笑顔を撮影。ラジオ体操、盆おどり、農作業中の人、病院長やお巡りさん、郵便配達員の人たちも撮影して貼り出す。楽しみにしている人も多い。掲示板下にプルタブやベルマークなどの回収ボックスを設置、小学校に届けている。

これからめざしたいこと

誰にも頼らず、ユニークな発想で地域を元気にすること、思いついたらすぐやってみることが自分たちの信条。まだまだ一步を踏み出せないでいる高齢者がおられるので、その人たちにも気楽に参加してもらえよう、このサロンで地域をつなぎ、いきいきとさせたい。この地区だけでなく、全地域に広がっていくとよいと思っている。



放課後子ども教室にて



老人施設訪問

優秀賞(yab 山口朝日放送賞)

光人形劇協議会

代表者 兼清 昌子（光市）

活動の動機、目的

市内の人形劇グループが集まり協議会発足。人形劇を愛する人たちが人形劇を通じて、子どもの情操教育の場、親子のふれあいの場・絆が深まる場として、また、仲間同士の研鑽の場として、楽しく交流し、輪を広げること。同時に同じ思いを持つ諸団体の文化活動に積極的に参加し、多くの人々と交流の輪を広げることが目的とする。

活動の内容

光市で活動している人形劇団（きらきらキッズ・光紙芝居・人形劇てぶくろ・ヨッペとナッペ・エブパネ・人形劇団しゃぼん玉）で構成。それぞれの劇団は個々に人形を手作りし、舞台も製作。練習を重ね、日頃から上演活動実施。

① 国民文化祭では「ひかり全国人形劇フェスティバル」に運営参加。17,000人の参加者を記録、人形劇の素晴らしさを全国に発信。メンバーの自信につながった。

② 1年の集大成としての「人形劇フェスティバル」を主催。

2008年第16回の「人形劇フェスティバル・このゆびと～まれ」は、地域づくり支援センターに団体登録をしたこともあり、それまでの2会場から3会場に増やし開催。

(内容)・人形劇の部 プロの劇団（人形劇団京芸・茶間屋ショーゴ）の招致。

アマチュア団体（岩国市・山口市・防府市・下関市・山陽小野田市・光市の7劇団）～県内の人形劇を開催している団体に参加をよびかけて開催した。

・ワークショップの部

光レクリエーション研究会、中学生のボランティア3団体、主婦グループ2団体による「無地のエコバッグに絵付け」など。

・喫茶コーナー 森っこクラブ他が参加。

・メンバーの家族も駐車場案内等で協力。

・他にも地域の社協やスポーツ少年団がこの場でバザーを開催し、資金を調達。

開演時間 10時から16時まで

参加人数 スタッフ45名、420人の方たちが参加

これからめざしたいこと

- ・出演料、会場費（冷暖房費）、印刷費等の捻出が大変だが、チケット料金を最低ラインで維持し、運営していくために、手作りマスコット・人形販売、フリーマーケットなどの収入源確保を検討中。
- ・今年度は小さい子どもたちが喜ぶような演目をして好評だったので、次年度も引き続き劇団を招致していく。経済的にも厳しい世の中だが、

この活動の必要性を信じ、子どもたちの情操教育の場、仲間同士の研鑽の場として頑張っていきたい。



人形劇の上演



ワークショップのようす

優秀賞(山口新聞社賞)

リフォームボランティア どんぐりの会

代表者 岡本 信子(長門市)

活動の動機、目的

ボランティアコーディネーターさんの指導のもと、遊休品の再利用ということで、最初は牛乳パックを再利用した椅子作りから始まった。古布(地区の方からの寄付)やニット工場から出る裁断品の端切れなどで手芸品を作るようになり、イベント等での販売収益金を活動費に充てる。少子化対策、地域福祉、高齢者福祉などに少しでも寄与したいとの思いで活動。

活動の内容

- ① 活動の源(資金作り)は主に、古布や牛乳パックを再利用しての作品制作と販売。

牛乳パック座椅子・各種布ボール・鍋つかみ・めがねケース・保険証入れ・巾着袋・ブローチなど皆でアイデアを出し合いながら作品を作る。最高齢者89歳。近くの施設から通ってくる方もいる。作品は地域の文化祭、清風園ふれあいまつり、萩往還祭り、ラベンダーまつり(湯免)で販売。文化祭では、作品展示と合わせて「おしえて〜リフォームボランティアどんぐりの会」というコーナーを設けて作り方を紹介。

- ② これらの活動で得た資金をもとに地域の様々な分野に支援している。

子育て支援として

- ・ 今年度新たに、福祉協議会の新事業『スタートブック』(絵本の読み聞かせ・絵本プレゼント)において会員皆で、年間で約50枚前後の手提げ袋を縫って協力。
- ・ 毎年スポーツ少年団1団体にスポーツ用品を進呈(ユニフォームや野球用品など)。

福祉支援として

- ・ 在宅寝たきり老人を訪問し、防水シートを寄与、合わせて手作りマスコットプレゼント。
- ・ 施設(明和苑・清風園・わかば苑)を訪問し、みかん進呈。洗濯物たたみも実施。
- ・ 共同募金、社協へ寄付。

地域支援として

- ・ ふれあいいいききサロンへの助成金援助活動。

これからめざしたいこと

みんなで知恵やアイデアを出し合って、「自分のできることは率先してやる！」がスローガン。指導者がいないので、皆「どんぐりの背くらべ」。そこから命名したが、一つのサロンのように集まり、語り合いながら楽しく活動していて、今後もこれまで築きあげてきた仲間の輪を大切に、もっと仲間を増やしながら、元気に活動を続け、地域福祉に寄与したい。



年末防水シート準備風景



手提げ袋をプレゼント

コープやまぐち奨励賞

むかしなつかし おてだま会

代表者 中村 信子（山口市）

活動の動機、目的

お手玉全国大会に出場した代表者が3段の認定を受けたことが設立のきっかけ。2,000人の参加者の内、山口からは一人だけの参加だったことから、お手玉会がないことを知り、良さを伝え、伝統文化を広げるために活動を続けている。

活動の内容

- ① 毎月1回定例で、地域の人たち（子どもから大人まで）を対象に、お手玉会を児童センターで開催。技術を競うのではなく、お手玉を遊び道具として用い、身体を動かしたり、歌ったりして楽しんでいる。内容は
 - ・ 子どもの喜ぶ歌や音楽に合わせて踊りながらリズムをとり楽しんでいる。
 - ・ 童歌に合わせてゴムをつけたヨーヨーお手玉で小さい子どもも参加。
 - ・ 会員が歌う「山口地方のお手玉歌」にあわせたりしている。
 - ・ 輪になって「あんたがたどこさ」でお手玉を手から手に渡し、楽しさを共有。
 - ・ 当月生まれの方に布で作ったケーキとしゃぼん玉でお祝いしている。
- ② メンバーも講師になって保育園・幼稚園・小学校・地域のサロンなどに出向く。代表者は山陽小野田市や周南市の保育園などに定期的に出向いている。他にも要請に応じ、県内は下関、周防大島など全域にわたる。5月は高知県にも出向いた。例として
 - ・ JA 女性部シルバーセミナー
 - ・ 県立図書館主催 講演会講師「お手玉で心ひとつに」
 - ・ 柳井総合庁舎で「手から手へ お手玉で元気！」
 - ・ きららドームの物産展・・・「おひろめ☆たい志集合」に参加
 - ・ セミナーパークで子育て文化フェスタ「お手玉遊びと作り方」
 - ・ 4周年記念企画として、「山口県大会」実施。広島のお手玉会と交流。など
- ③ 会員によるお手玉の中身のじゅず玉集めを通じて、身近な自然にも目を向け、自然豊かな山口の地を再発見。
- ④ 「お手玉だより」を毎月1回発行。手描きで活動紹介や今後の予定を紹介し、当日の参加者に配布している。

これからめざしたいこと

- ・ 参加費を集めない為、すべて持ち出しで行っているが、参加者から「生きる希望や元気につながった」との声を聞くことができうれしい。4周年記念の山口県大会を通じてアピールを行った。これからも他県の人たちと交流をすすめていく等、よりよい方向で進めていきたい。
- ・ 平安時代から続いているこの伝統文化を継承していきたいし、お手玉遊びはその場ででき、老若男女だれでも皆で楽しめ、手先を使うことで脳も心も活性化できる遊び。それと笑顔になれることが一番のメリットだと思っているので、今後も広めていきたい。



美東町のサロンで



山口県大会でのヨーヨーお手玉

コープやまぐち奨励賞

多胎児育児サークル ピョピョクラブ

代表者 福田 利恵（周南市）

活動の動機、目的

多胎児を持つお母さんが集まり、会員相互の連絡と親睦をはかり、教育と育児について考えることを目的にしている。

活動内容

① 定例会開催

ぴよっこわあるど（0～3歳児対象）周南：新南陽保健センター又はわかやますくすくセンターで毎月1回。

② ピョピョクラブ全体行事

○お花見、Dayキャンプ（バーベキュー）、みかん狩り、クリスマス忘年会、ママたちの忘年会

○07年度キリン福祉財団助成金事業（3回シリーズで絵本を学ぼう・子ども対象の勉強会、親対象の勉強会開催）

○ピョピョ会報誌編集作業（年4回発行に向けて編集作業実施／毎回連絡網で知らせ、参加を募り、楽しく作業）～内容は、行事報告、行事レポートと参加した子どもの感想、新入会員紹介、お絵かきコーナー、誕生日おめでとう、おでかけ情報など22ページ立て）

○母子推進委員さんとおやつづくり、子ども料理教室

○歯科指導（歯磨き指導／周南出前トーク）

③ ピョピョ Jr.（小学生） お泊り会

多胎児を持った親にしかわからないことも多く、困ったこと等対処の仕方、育児の情報交換を行う。また、家から出かけることは、かなりのエネルギーが必要だが、会に出かけることで元気が出て、家に閉じこもることもなくなり、育児ストレスの軽減となっている。

これからめざしたいこと

幼稚園入園、小学校入学等、年齢が上がるにつれ、会への参加が困難になってきている。又、就労する人も増え、会員が減少し運営が難しくなっている。しかし、多胎児の出産・育児の情報は少なく、出産後も大変で、一人で二人を連れての外出は中々できない現状がある。HPの充実とあわせて、育児に悩みやストレスを感じる人が集まって話が出来る場を提供していきたい。



母子推進委員さんと交流会
（Jr.料理教室）



徳山動物園でお花見

コープやまぐち奨励賞

山口盲ろう者友の会

代表者 矢橋 和子（下関市）

活動の動機、目的

視覚と聴覚の両方に障害を持つ「盲ろう者」はテレビや音楽を楽しむことも、単独での外出や他者との会話も困難である。その困難さが理解されず、家の中に閉じこもった盲ろう者も少なくない。そこで盲ろう者の集える場を作ることが必要と考えて設立。「盲ろう者」とその人たちを支援する人たちの相互の交流を通じ、より充実した社会生活と生活環境の向上をめざす。

活動内容

- ① 定期総会、定例会、交流会の開催
 - ・ 定例会は地区別に研修会や勉強会を実施（ブリスト・指字他学習会）。
東部：週1回／中部：月2回／宇部：月2回／西部：月1回
 - ・ 交流会は、苺刈り、おしゃべり会、ボーリング等のゲーム、クリスマス会や新年会等。
- ② 通訳・介助員派遣事業
定例会、交流会などに行き、通訳や移動介助実施。
- ③ 通訳・介助員現任研修会
コミュニケーション学習、ロウビジョン（弱視）、移動介護技術などの講義や実習を年1回実施。
- ④ 通訳・介助員養成講習会
初級コース6回・中級コース2回実施、養成講座（オープン講座年2回）実施。
- ⑤ 盲ろう者とのコミュニケーション方法の学習会
- ⑥ 盲ろう者へのIT個別指導
- ⑦ 県内盲ろう者の掘り起こし及び訪問活動
- ⑧ 会報「ほほえみ」の発行（年2回）
- ⑨ 福祉機器「ブリスト・点字ディスプレイ」等の貸し出し
- ⑩ 全国盲ろう者大会、中四国盲ろう者大会等への参加
- ⑪ 会員、その他からの点訳奉仕活動と地域主催の行事への参加

これからめざしたいこと

10周年記念講演「盲ろう者として生きて」～東京大学教授 福島氏～を皆の力で開催。一般市民への盲ろう者に対する理解を深めた。今後もこのような講演会を通して、その家族や周囲の人々の協力、連携強化、また盲ろう者自身の社会参加を促進したい。さらに指導者や通訳介助員養成に力を入れ、いろいろなコミュニケーションの場や勉強会を広げ、多くの人が手話や指字ができるようになることをめざしていく。



10周年記念式典＆講演会



交流会（花見）

コープやまぐち奨励賞

光市認知症を支える会(福寿草の会光)

代表者 山下 悦子(光市)

活動の動機、目的

認知症の人を抱え、苦悩されている家族の人を支えたいとの思いで発足。また家族が協力して、認知症の人の福祉及び精神保健対策の充実をはかるとともに、家族間の交流を深めていく。

活動内容

例会で介護者の悩み相談など情報交換、施設を選ぶ参考になるよう施設見学、他家族会との交流会、一般市民対象の講演会、リフレッシュ事業、介護者ワイワイ座談会を開催。認知症サポーター養成講座の開催。

① 月に1回の例会では

- ・介護者が、悩みや体験を気軽に話せ、他の介護者や専門家からアドバイスを受け、介護の情報交換と勉強をしている(音楽療法・権利擁護学習・小規模多機能施設について等)。
- ・年1回、施設を選ぶ参考になるよう、専門病院や介護老人保健施設などの見学を開催。
- ・他家族会との交流会を開催し、会員との交流を深め情報交換を行う。
- ・年1回の講演会～一般市民を対象。認知症について理解してもらい、介護者の気持ちを理解してもらおう。08年度は“優しさの心って何?”-講師 陽(みなみ) 信孝先生(元 萩市教育委員会教育長)
- ・年1回のリフレッシュ事業を開催。介護者や参加可能な認知症の人、ボランティアの人たちで、日帰り温泉に行き、日頃の疲れを癒す。

② 年1回の介護者ワイワイ座談会(8月)

一般市民も含む在宅介護者を対象に、介護の悩み、自慢(愚痴ということばではなく、看護の仕方等よくできたこと、前向きに思ったこと)等、お茶を飲みながら話し合う。

③ 認知症サポーター養成講座

07年度キャラバンメイト(会員6名)として17回開催。認知症を理解し、認知症の人やその家族を見守る認知症サポーターをひとりでも増やしていく。

④ 広報“えがお”を年1回発行

⑤ 年1回総会実施。

⑥ 地域の「光ふれあい・健康フェスタ」に参加し、『物忘れ相談コーナー』を担当。

これからめざしたいこと

今後も周知活動をすすめ、会員を増やしていくこと。認知症の人や家族を孤立させないためには、周囲の理解と気遣いが必要。誰もが正しい知識を持ち、支える手立てを知っていれば、家族が疲れきって共倒れすることも少ない。「認知症」になっても安心して暮らせる街になることを目指す。



陽信孝先生による講演会



光市地域づくり支援センター例会

コープやまぐち奨励賞・学生の部

梅光学院大学 ハンドベルクワイア

代表者 中原 聖佳（下関市）

活動の動機、目的

学内での演奏活動に加え、駅前や医療センター、老人施設、教会など様々な場所に出向き、自分たちの演奏により、多くの方たちが喜びや幸福感、感動を感じていただければとの思いで演奏活動を実施。

活動内容

約20年間、週2回の練習と、学内に留まらず地域に数多く出向いて演奏活動を続ける。ボランティア活動を通じて、「自分のためだけに時間を使わない喜び」や「自分のタレントには意味がある」の教えて活動。

○第12回九州ハンドベルフェスティバル（年に1度、九州・山口を中心に開かれる演奏会／日本ハンドベル連盟九州支部主催）で演奏。

○第1回梅光学院大学定期演奏会を中学・高校のハンドベル部とOG、ゲストを迎えて初の演奏会を開催。企画・運営・宣伝ポスター制作・司会進行・会場設営を部員で実施。6曲を演奏。

○梅光学院大学大学祭（ルーキス祭）では10曲演奏。

○ハンドベル体験実習（北九州市の生涯学習センターから約30人の生徒の体験学習手伝い）。

○長府企業フェスタ・海上自衛隊小月航空基地にゲスト参加。下関市西市はたるの里イベントで、ステージ参加2回。y a b山口朝日放送本社点灯式で演奏。下関市ノーマイカーデーイベントとして下関駅で演奏2回。敬老ディサービスセンター松永医院で演奏。JR下関駅クリスマスイベントとして、道行く人の前で演奏2回。梅光学院大学クリスマス礼拝、ユーパル下関クリスマス会、サンライフクリスマス会で演奏など。

毎月数多くの演奏活動を実施しているが、特に12月は15回の演奏を実施。

これからめざしたいこと

- ・授業・実習と重なるので、部員の日程調整、練習時間を合わせることで、楽器の運搬、技術の向上などの問題もあるが、聴いてくださった多くの方の笑顔や涙に感激し、それが次への糧となる。きれいな演奏、人のための演奏をし続けることで、興味をもってもらい、部員増にもつながりたい。
- ・ハンドベルを通じてのボランティア活動と、単に聴いて頂くだけでなく、部員が指導者として成長し、色々な施設にハンドベル部を立ち上げ、交流の輪を広げていきたい。



JA 下関駅前にてクリスマス演奏



第1回梅光学院大学定期演奏会

コープやまぐち賞組合員奨励賞

アースフレンド

代表者 伊藤 広子（宇部市）

活動の動機、目的

「ものを大切にする」「暮らしを見直すことの大切さ」を、多くの人に伝えたいという思いで、生協での牛乳パックの回収の実験も含めた取り組み（調査・片付け・整理など）をきっかけにスタートした自主活動グループ。さまざまな活動を通じて環境への思いを伝える。

活動内容

① 定例会

リフォーム教室開催。毎回1回、コープ宇部センターとコープ小野田店組合員集会室で交互に開催。会員のそれぞれの得意分野を活かし、相互に教えあう。手作りの昼食をはさんで交流。

- ・ 使わなくなった傘の布をはぎ、きれいに洗い、利便性を活かした「買い物袋」「腕抜き」「エプロン」「シャワーキャップ」などを作成。
- ・ ワイシャツや着られなくなった服を皆でアイデアを出し合ってリフォーム。
- ・ マイ箸を入れる箸袋を作成。

② 買い物袋持参運動（地域組合員活動）参加

年2回コープ宇部店・小野田店において持参の呼びかけと傘袋の販売。

③ 傘袋づくり指導

要請を受け、メンバーが講習会に出向く（08年度は周南地域の組合員活動において）。

④ 県「いきいきエコフェア」に参加

買い物袋持参の呼びかけと袋の販売。

いろいろなイベントに参加することで、一般の人たちに今まで捨てていたものを再利用できることをアピールできたことや、この会が友達づくり、生きがい作りの場となっていることが成果。

これからめざしたいこと

- ・ 会員の広がりがなかなかないので、以前開催していた「リフォーム作品ファッションショー」を実施し、視覚に訴え、会員の広がりと同時に環境への配慮を呼びかけていきたい。
- ・ 買い物袋持参運動の広がり、自分たちが少しずつ活動してきたことが社会で認められ、皆の意識が変わってきたのではないかと自信とし、今後も「継続は力」と活動を続けていく。



傘袋づくりの様子



店内でマイバッグ普及活動

コープやまぐち組合員奨励賞

紙芝居グループ「たんぽぽ」

代表者 古賀 智恵子（山口市）

活動の動機、目的

平成9年にグループの一人が児童センターでボランティアの紙芝居を始めたのがきっかけ。その後会員を募集し、集まった人で「たんぽぽ」結成。

日本が生んだ紙芝居を文化として広め、楽しさをたくさんの人に伝え、会員と参加した子ども・親の感性を豊かにすることを目的とする。

活動内容

紙芝居を中心に英語紙芝居、オリジナル紙芝居、パネルシアター、エプロンシアター等、楽しくうれしい時間を提供すると共に、独自に企画した催しにも取り組む。

① 定例紙芝居会「紙芝居がやってくる」を毎月1回上演

終了後、次回の上演内容を決め、各自自宅で練習しておく。

② 出張上演

小学校、学童保育、幼・保育園、他の希望団体（子育てサークル・子供会・老人ホームなど）。

③ 「紙芝居フェスティバル」主催

年に1回、自分たちで企画、運営する。内容は、

- ・ 紙芝居上演（30分程度を3回）、来場者がいつでも紙芝居を観られる環境を作るため、リレー上演を行う。
- ・ みんなで作ろう紙芝居（常時、子どもたちでオリジナルの紙芝居を作る/ 折紙やクレヨンなどを使って好きな絵やキャラクターを書いて思い思いの物語を考える）
- ・ ワークショップ、工作など
- ・ 古本、古絵本チャリティ販売

④ 山口県母親クラブ連絡協議会県大会、リーダー研修会の講師など

これからめざしたいこと

児童センターという集いやすい場があることで、毎回参加者の顔触れが違い、新鮮な出会いがあり、ふれあうことを楽しみに出向いている。2月に教育委員会から「子どもの生活リズム向上全国フォーラム」において、“早寝早起き朝ごはん”を依頼され、開催予定。これからも継続を一番の力として頑張っていきたいし、日々研鑽に励んでいきたい。



紙芝居がやってくる



紙芝居フェスティバルにて
“みんなの笑顔がうれしい”

コープやまぐち組合員奨励賞 テーマグループ「ティンクルスター」 代表者 米村 朋子（光市）

活動の動機、目的

子どもたちが小学校に入ると、学芸会もなく、バレエ等の習い事をしなくても何か晴れやかな場に立てないかと、他のお母さんたちと「島田文化祭」に出させてみようと思ったことがきっかけ。

活動内容

- ① 子どもたちの好きな曲やダンスをテレビ等から探してアレンジし教えている。週に1回の練習では子どもはダンス、親はおしゃべりと、子ども同士・母親同士のつながりづくりの場に定着。

地域のイベントに積極的に参加。

（2007年度の出演イベント）

7月 島田川まつり

8月 島田地区盆踊り

コープ平和コンサート

9月 光まつり・・・パレードに参加、お父さんも一緒に防犯パトロールの寸劇を演じた。
消防まつり

10月 島田文化祭

2月 梅まつり・・・初めて参加。舞台の広さに合わせて学年別に演じた。

- ② クリスマス会を開催。学校、家、一人ではできないことを企画して、子どもたちに体験してもらった（もちつき・キンボール・ネイチャーゲーム・巨大あみだくじ等）。

- ③ 「放課後子ども教室」では、ダンス以外に島田小学校から楽器を借り、トランペット、太鼓、バトン等に触れ、使うことができた。

これからめざしたいこと

最初は1・2年生の8人から始まったが、やってみたいという人が集まり、今は1年から6年までの26人に増えた。お母さんたちが協力的で自分の子どものためもあるが、小道具作りなどを通じて、お母さん同士、学年を越えたつながりづくりができた。子どもたちは舞台という目標をめざして練習に励むという意識はあまりないものの、練習時間を楽しんでいて、興味あるものなど、子どもたちの希望を聞きながらすすめていきたい。



親子いっしょになってダンスの練習



平和コンサートに参加

コープやまぐち組合員奨励賞

音訳グループ「みずの会」

代表者 徳光 恵美子（山口市）

活動の動機、目的

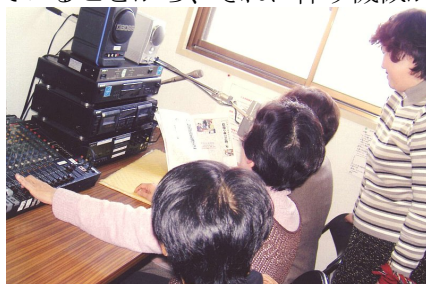
山口市のボランティア講習会に参加したことがきっかけで昭和49年に発足。当初はガイドヘルパーを実施。平成3年から音訳開始。視覚障がい者の方たちへ地域の情報を伝えていくことを目的とする。

活動内容

- ① 月刊「やまぐちタウン情報」を録音・作成・発送
(山口市盲会だより・サンデー山口・ほっぷ等からの情報、てくてく探訪)
テープ作成は会員を3班に分けて月当番で作成。会館で録音、編集、ダビング作業実施。
当番以外の方は、下見・取材の情報収集と郵袋発送作業を行う。
- ② 貸し出しテープの開始
 - てくてく探訪（会員が話題を求めて取材したもの）を録音。
 - 私の旅シリーズ（2巻・ヨルダンを訪ねて、四国八十八箇所等）、山口発見シリーズ（県庁みて歩き・ザビエル記念聖堂等）、山口の昔話シリーズ、話題あれこれシリーズ（5巻・もりさま祭り、鍛冶屋さんの話）、郷土史家・内田伸シリーズ（5巻・箸の話、敬語と丁寧語など）、裁判員制度について。
 - しらさぎ会館の窓口を通じて貸し出し。
- ③ 盲人会の方たちとの交流会開催
 - 年1回、バス旅行開催。なるべく体験システムのあるところを探してガイドヘルパーとして1対1でサポート参加（08年度は徳地・重源の郷で紙漉体験）。開催前には数回の下見と参加人数と同数の会員を確保。
 - 消防署での避難体験も実施。
- ④ 音訳研修公開講座を年1回と自主研修を数回開催（NHKのアナウンサー・県認定講師を招いて）。
会員拡充の意味もふくめて、社協便りを通じて一般公開の研修会を行う。
- ⑤ 08年度は7人の県立大女子学生がボランティアで参加（研修会・交流会など）。
- ⑥ 社会福祉協議会活動へ協力（高齢者への対面朗読・テープ作成、赤い羽根街頭募金・施設見学等）。

これからめざしたいこと

- ・盲人会の方たちから喜びの言葉を聞くと、人の役に立っていることの充実感が会員にとってはうれしい。これからも視覚障がい者にその時々々の旬の情報を提供すると共に、会員のスキルアップにも努めたい。
- ・CD利用者が増えていることから、それに伴う機械が必要で、助成金や蓄えてきたバザーの収益金で整えつつある。テープ貸し出しは、今後は施設や病院などへも検討中。



録音室にて「山口タウン情報」作成



盲導犬といっしょに、交流会

コープやまぐち組合員奨励賞 友 遊

代表者 森国 恵子（山陽小野田市）

活動の動機、目的

地域子どもたちに映像ではなく、生の舞台をみせたいとの思いで発足。

映像では味わえない演者との関わりの中かで、人との関わり方や生の舞台に接することで感性を豊かに高めることを目的とする。

活動内容

1 3年間活動中。初めは自分たちで人形劇をしていたが、人数が減ってきたことで、できることとして、大型絵本作りに変えた経過がある。1年に1冊、大型絵本を作り、読み聞かせを実施。

① 毎月2回定例会開催

作品づくりと読み聞かせの練習を行う。

作品として「いたずらお婆け」「はしれ！ウリくん」「ちいさなくれよん」など

② 5月第2日曜日の「有帆市」で上演

「有帆市」は、昔は農業市として行われていたが、近年は有帆ふるさと協議会の主催で行われている。

- ・子どもたちを対象に、大型絵本の読み聞かせと他団体の舞台をあわせて1時間位、午前・午後の2回上演する。

- ・市内の人形サークルの方たち（すえ おはなしの会、メルヘンサークル）に声をかけ、上演をお願いしている。

③ 老人施設にも出向き、読み聞かせ開催

デイサービス「ほほえみ」に大型絵本を持って行き、読み聞かせやみんなで詩などの音読を行う。

④ 資金づくりのためにバザー出店

「有帆市」で、焼きウィンナーや手作りクッキーなどを販売。

これからめざしたいこと

活動資金が足りないなので、プロの劇団を呼べないのが悩みだが、何年後かには呼びたいと思っている。



大型絵本いろいろ

